

現 状

【能力に関する改良目標】

（4ヶ月齢時体重）

- ・ 4ヶ月齢離乳時の体重は、雌では順調に増加したが（目標をほぼ達成）、雄では減少。

（1腹当たり離乳頭数）

- ・ 1腹あたり離乳頭数は、目標を達成。

【能力向上に資する取組】

（改良手法）

- ・ 近交係数の高まりを回避するため、家畜改良センターはH24年度にめん羊（サフォーク種）をニュージーランドから導入

（優良な種畜の確保）

- ・ 畜産技術協会、北海道めん羊協議会及び家畜改良センターが連携し、北海道内の種畜生産農場から本州地域への種畜の供給を民間主体で実施。

（人工授精技術の向上・普及）（季節外繁殖技術の推進）

- ・ 自然交配が一般的で、高価な器具や人員が必要となる人工授精技術はあまり普及していない。
- ・ 羊肉の周年供給を可能にするため、一部において凍結精液等を利用した季節外繁殖が行われているところ。

【その他】

- ・ 里地里山保全への放牧、ふれあいなどの多面的利用への注目が高まっている。
- ・ 原発事故により、東北・北関東の放牧地等が汚染

課 題

【能力に関する改良目標】

（4ヶ月齢時体重）

- ・ サフォーク種の初期生育が早期化し、現在では3ヶ月齢時での離乳が一般的（目標月齢の見直しの可否）。

【能力向上に資する取組】

（改良手法）

- ・ 家畜改良センターから民間への優良な育種素材の供給継続

（優良な種畜の確保）

- ・ 登録頭数の減少に伴う純粋種の減少が危惧。

（人工授精技術の向上・普及）（季節外繁殖技術の推進）

- ・ 羊肉の乗用先（販路）の拡大と併せて、生産現場での繁殖技術の普及・定着
- ・ 羊肉の周年供給を可能とする技術であるものの、飼養管理・家畜供給に関する情報が不足。

- ・ 利用目的毎の需要に即した多様な利活用に関する情報共有原発事故により、東北・北関東の放牧地等が汚染

- ・ めん山羊は移行係数が高く、牛のような暫定基準値の設定が極めて困難

山羊：現行（第9次）家畜改良増殖目標に係る現状と課題

現 状

【能力に関する改良目標】

（総乳量）

- ・ 現在、（公社）畜産技術協会が民間のデータを収集が行われている状況。（家畜改良センターのデータによると総乳量は横ばい傾向で推移）

【能力向上に資する取組】

（改良手法）

- ・ 近交係数の高まりを回避するため、家畜改良センターはH25年度に山羊（ザーネン種）をニュージーランドから導入。

（優良な種畜の確保）

- ・ （独）家畜改良センターや（公社）畜産技術協会が種畜供給に関する情報収集を行い、種畜の供給を民間主体で実施。

（人工授精技術の向上・普及）（季節外繁殖技術の推進）

- ・ 簡易な人工授精方法についてH25年度に試験的に実施中
- ・ 山羊乳の周年供給を可能とする技術であるものの、山羊乳の需要はわずかであるため普及していない。

【その他】

- ・ 里地里山保全への放牧、ふれあいなどの多面的利用への注目が高まっている。
- ・ 原発事故により、東北・北関東の放牧地等が汚染

課 題

【能力に関する改良目標】

（総乳量）

- ・ 日本ザーネン種の泌乳曲線を利用した250日換算乳量の利用を検討。
- ・ 産乳能力に優れた種畜の活用が必要

【能力向上に資する取組】

（改良手法）

- ・ 家畜改良センターからの育種素材を利用した民間の種畜生産農場による種畜供給、計画的交配等が行える体制の強化。

（優良な種畜の確保）

- ・ 純粋種の減少による雑種の増加が危惧。

（人工授精技術の向上・普及）（季節外繁殖技術の推進）

- ・ 民間主体の種畜供給が行われる中、種畜の生体流通が一般的で、高価な器具や人員が必要となる人工授精技術は普及していない。

【その他】

- ・ 利用目的毎の需要に即した多様な利活用に関する情報共有
- ・ めん山羊は移行係数が高く、牛のような暫定基準値の設定が極めて困難